

地方交付税で各自治体に配分されることになったんだ。



なるほどね。制度の改正があったわけね。13年度からの臨時財政対策債というのがそれでしょう。それは前回の試算では見込んでいなかったのね。



そう。…それとも一つ、古くなった火葬場の建て替えや新市民プールの建設などの大型事業を実施することになったんだけど、財政的に大丈夫なのか検討しておく必要があったんだ。



新市民プールといえは、たしかこの3月の補正予算で基本設計費が計上されていたわよね。どうして、年度末に補正してまで行う必要があったの？14年度の当初予算に計上すれば済むんじゃないの？



うん、そう考えるよね。新市民プールのような約16億円もかかる事業を行うときには、単年度の負担を軽減するためにも借金をする必要があるんだ。

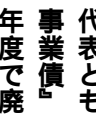


市債のことね。建設する年度だけの税金で賄おうとすると、その年に住んでいる市民だけが負担することにもなるわね。



そうだね。ところで市債の中には、『有利な市債』があるんだ。なぜ有利かというと、元利償還金の

一定割合が後年度の地方交付税で交付される仕組みがあるからさ。その代表ともいえるのが『地域総合整備事業債』というんだけど、それが13年度で廃止されたんだ。



もう『有利な市債』というのは、なくなってしまったの？



いや、まだ一部残ってはいるんだけど、補助を受けずに実施する事業に利用する市債としては、『地域総合整備事業債』が最も有利だったんだ。

でも、13年度中に事業着手していれば認められることとされたんだ。そこで、補正予算に計上して事業着手としたわけ。



なるほど、滑り込みセーフというところね。でも、そのほかにも火葬場の建て替えも必要でしょう。



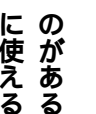
うん。今の火葬場は昭和48年に建てたものだから、もう限界にきているんだ。それに市民生活にはなくてはならないものだからね。

歳入を見てみよう



それで、『中期財政見通し』の内容は、どうなっているのかしら？私もこれから一生懸命に勉強しなきゃね。私でも分かるように、やさしく教えてちょうだい。

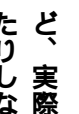
歳入から説明しよう。9ページの表を見てもらえば、歳入に『一般財源』というのがあるだろう。これは、市が自由に使えるお金のことを言うんだ。市税は15年度で0.8割、16年度は1.0割の伸びを見込んでいるんだよ。



前回の試算では、たしか1.5割の伸び率だったから、伸びを低くしているのね。



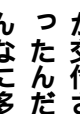
不況が長期化しているよね。それに伸び率を高く見込むと試算上は楽になるけど、実際に下回ると貯金を取り崩したりしなければならなくなることがあるから、慎重に見込んだんだ。



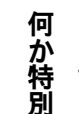
『一般財源』の中の『譲与税・交付金』は金額が小さくなってきているわね。



ここ2、3年は、高金利のときに預金したお金が満期を迎え、利子課税の一部が交付される利子割交付金が大きかったんだけど、14年度以降はもうそんなに多く見込めなくなるんだよ。



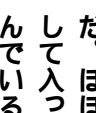
『国・道支出金』はどうなの？前回の試算よりもかなり大きくなっているわね。



何か特別の事情があるの？

うん。これは『歳出』の『受託事業費』というところを見てくれないか。17億円とか、20億円とか、大きな数字になっているよね。これは、いわゆる

温泉バイパス（道道）の整備について、北海道から受託された事業なんだ。ほぼ同額が『国・道支出金』として入ってくるから、見掛け上膨らんでいるんだけど、この受託事業費は収支には影響しないんだ。



そうね。歳入歳出がほぼ同じだね。



『市債』には、先ほど話のあった臨時財政対策債が含まれているのね。いくらくらいなの？



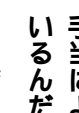
14年度で6億円、15年度以降は7.5億円を見込んでいるんだ。



その分、地方交付税が減って、市債が膨らんでいることになるね。



歳出を見てみよう



人件費が前の試算に比べてずいぶん減っているわね。どうしてなの？

職員の数減らしてきているからね。その分、職員は大変になってきているけど、少数精鋭で頑張らなくちゃね。さて、16年度で増えているけれど、これは退職者が増える関係で、退職手当によって一時的に大きくなっているんだよ。



扶助費というのは、児童手当や医療費助成、生活保護費などね。社会保障制度の柱とも言える経費でしょう。これからはだんだん増えていくのね。